

# イソバナとオウギウミヒドラ



## 水族館へ行こう！

### 京都大学白浜水族館

4

## 久保田 信

お花畑を連想させる刺胞動物門花虫綱の仲間が入った水槽があり、サンゴの親類の色あでやかなヤギ類がいくつも花を

寄せ、上方の岩を見ると、樹木状のヤギ類がいくつも付着している。それらはイソバナという種で、平面的に広がった群体だ。骨格の部分の枝を拡大して見ると、小さな硬い骨骨片で覆われている。また、イソバナは石のように硬い塊ではなく、

中に、変わり種が生息している。それはイソバナそっくりだが、ヒドロ虫綱の仲間のオウギウミヒドラである。

体の中には、雄だと精子、雌だと卵ができる。イソバナは体内に生殖巣ができるので外からは見えない。

オウギウミヒドラとイソバナのように、同じような生息環境で暮らすため、血筋は遠いが、一見するとよく似た外形となる「他人の空似」のような現象を収斂(しゅうれん)という。

# 外見似るが「他人の空似」

咲かせている。その美しさから白浜水族館パンフレットの表紙やポスターに使われたこともある。水槽のガラス面に顔を

プラスチックのような弾力があるのが特徴だ。南日本の数十センチより浅い海中の岩棚に付着し、餌となる微小な動物などを触手で捕らえながら暮らしている。枝の色は群体によって異なっている。

ヒドラの枝のあちらこちらに咲いた白い花(個虫)はこん棒状に伸びて、そこにはたくさん触手が上下に散らばって生えている。

収斂は、生物の世界では下等なものから高等なものまでさまざま仲間で見られる。オーストラリアにいる有袋類(例・フクロモモンガ)と他の大陸にいる真獣類(例・モモンガ)も他人の空似である。(京都大学准教授)

色鮮やかなイソバナ。左側にある黒いものがオウギウミヒドラ。(水槽番号2003)

このイソバナの群体の

実(生殖

授)